

小野一樹先生のお薦め本

『余命 10年』

小坂流加

この本を紹介する前に皆さんに考えてほしい質問があります。
「もし余命が10年なら、あなたはどのように生きてますか」

人それぞれ様々な考え方やこだわりが表れる反面、想像がつかず答えが出ない質問だと思います。ちなみに自分は、後悔がないように自分の気持ちに正直なって、好きなこととかをやりまくって生きていくのかなと思います（笑）

この本は、余命10年を宣告された女性が限られた時間を生きるという話です。簡単なあらすじを紹介しておきます。

～20歳の高林茉莉（たかばやし まつり）は、数万人に一人という不治の病にかかり、余命が10年であることを知る。笑顔でいなければ周りが追いつめられる。何かをはじめても志半ばで諦めなくてはならない。未来に対する諦めから死への恐怖は薄れ、淡々とした日々を過ごしていく。そして、何となくはじめた趣味に情熱を注ぎ、恋はしないと心に決める茉莉だったが...～

人と関わり生きることの大切さや自分の気持ちに向き合うこと大切さなど、様々なことについて考えさせられる話になっています。是非手に取って読んでもらえると嬉しいです。



新刊コミック

『ミステリと言う勿れ』 田村由美

2022年TVドラマになり劇場版も作られた人気コミックシリーズです。

主人公は大学生の久能整。かしこく物知りで冷静で名探偵の才能はあるのにユニークな変人（シャーロック・ホームズ以来の黄金パターンです）。

誰にも迷惑をかけないおとなしい人間なのになぜか殺人事件にまきこまれたり、乗ったバスがバスジャックされたり、事件にぶつかる運命です。ミステリが好きな人におすすめです。

新刊おすすめ本

『日本に住んでる世界のひと』 金井真紀

いろいろな国から日本にきた人々から聞いた話を集めた本です。日本人の彼氏ができて日本で就職したというカリブ海の島国バルバドスの女性。死ぬほど苦労してもめげずわが道をゆき、「なんだなんだ、この攻めの人生は」（1と作者に言わせるモンゴルの女性。1998年から2003年までに540万人が紛争で死んだ（つまり年間90万人！）とさらりと言うコンゴの男性（入国管理局に難民申請しているのに許可がおりないそうです）。

最後に、あるメキシコの女性の言葉を引用します。

「人が異文化に出会って興味をもつ、理解する、好きになる、その一步一步近づいていく過程はとても神聖な領域なの。それをおもちゃにしたらいけない。」